

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 8 月 11 日 (2005.8.11)

【公開番号】特開 2003-245830 (P2003-245830A)
 【公開日】平成 15 年 9 月 2 日 (2003.9.2)
 【出願番号】特願 2002-48206 (P2002-48206)
 【国際特許分類第 7 版】

B 2 3 P 19/00

B 2 3 P 21/00

【F I】

B 2 3 P 19/00 3 0 1 H

B 2 3 P 21/00 3 0 6 A

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 1 月 17 日 (2005.1.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

円周方向で所定の角度ピッチでその磁気特性が交互に変化するパルス生成環と、当該パルス生成環が固着された環状の芯金とを有し、転がり軸受の回転側軌道輪に装着されて当該回転側軌道輪の回転速度検出に供される複数枚のセンサロータを積層保持する治具であって、

前記芯金が外嵌する非磁性体を素材とした保持筒を備えたことを特徴とするセンサロータ保持治具。

【請求項 2】

円周方向で所定の角度ピッチでその磁気特性が交互に変化するパルス生成環と、当該パルス生成環が固着された環状の芯金とを有し、軸受の回転側軌道輪に装着されて当該回転側軌道輪の回転速度検出に供される複数枚のセンサロータを積層保持する治具であって、

前記芯金が内嵌する非磁性体を素材とした保持筒を備えたことを特徴とするセンサロータ保持治具。

【請求項 3】

前記保持筒が紙または合成樹脂を素材としたことを特徴とする、請求項 1 または 2 記載のセンサロータ保持治具。

【請求項 4】

前記保持筒が透明な合成樹脂を素材としたことを特徴とする、請求項 2 記載のセンサロータ保持治具。

【請求項 5】

隣接するセンサロータ間に介装される非磁性体を素材とした環状または円板状のスペーサを備えたことを特徴とする、請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載のセンサロータ保持治具。

【請求項 6】

前記スペーサが紙または合成樹脂を素材としたことを特徴とする、請求項 5 記載のセンサロータ保持治具。

【請求項 7】

各センサロータの向きを揃えて、軸心を一致させて直に積層させた時に、センサロータ

のパルス生成環とパルス生成環が固着された環状の芯金とが当接しない寸法関係になっていることを特徴とするセンサロータ。

【請求項 8】

センサロータの搬送工程あるいはハブユニット軸受の組立て工程において、請求項 1 から 6 に記載した保持筒を用いたことを特徴とするハブユニット軸受。